

行政視察報告書

令和6年2月16日

視察委員会名	広聴広報委員会		
報告書作成者	副委員長 福沢 美由紀		
出席者氏名	委員長 伊藤 彦太郎		
	副委員長 福沢 美由紀		
	委員 豊田 恵理 新 秀隆 森 英之		
	深水 隆司 古田 吉昭		
欠席者氏名	なし		
所管課職員 氏名		随行職員 氏名	渡邊 靖文 山北 康仁

	視察日	視 察 先	視 察 目 的
1	1月24日	岡山県久米郡 美咲町議会	広聴広報の取組について
2	1月25日	京都府議会	広聴広報の取組について

広聴広報委員会では、主に広報番組制作を中心に「広聴広報の取組」について、令和6年1月24日から25日にかけて、岡山県美咲町議会及び京都府議会を訪問し、説明を受けた。

●美咲町議会の取組について

【美咲町議会メディアミックス構想】

美咲町議会での広聴広報の取組については、広報特別委員会が所管しており、美咲町議会に設置されている2つの常任委員会のうち、それぞれの委員会から「意欲のある6人」を選出し構成されている。任期は4年とのこと。

美咲町議会では令和2年から、「美咲町議会メディアミックス構想」と題し、あらゆる広報の手法を確立し、様々な媒体を用いて、議会に関する情報を幅広い世代に向けて発信することを心がけている。具体的には、議会だよりや議会HPのほか、みさきタウンテレビジョン（美咲町のケーブルテレビ局。以下「みさきテレビ」という。）、Youtube、Instagram、告知放送（防災無線のようなもの）、議会アンバサダー（美作高、美作大の学生など若い世代の声を議会運営に反映させることを目的として設置）、プレスリリースによる議会活動の配信など、これらの様々な手法を積極的に活用し、広報活動に取り組んでいる。

なお、SNSに関してはFacebookではなく、若い世代の利用が見込まれるInstagramを選定したとのこと。

これらの活動は、単なる広報活動にとどまることなく、デジタルデバイドのない議会や主権者教育に繋がるものと考えられており、議員と事務局が一体となり取り組んでいる状況がうかがえた。

【みさきテレビによる番組制作・配信】

番組制作、配信については、特に美咲町議会とみさきテレビとの関係が特徴的である。議会中継のみならず、美咲町議会はみさきテレビへのプレスリリースにより、様々なトピック（例えば広報紙の紹介、常任委員会での特別な取り組みの紹介、来町視察の紹介など）を、みさきテレビに取り上げてもらい地域に向けて放映されている。

また、みさきテレビは町営のケーブルテレビ局であるため、これらのトピックを収録・編集することについて、町議会としての予算は発生していない。さらにみさきテレビで制作された動画の使用申請を行い、YoutubeやHPなどで当該動画を配信し、様々な媒体で発信することができ、幅広いターゲットに対し広報することができている。

【美咲町議会だより】

議会だよりについては実に6回程度の委員会を経て制作されている。また、議会だよりの編集マニュアルが策定されている。見て、読んでいただくために、むずかしい言葉を使わず、読み手を意識した記事を心掛け、表紙の写真の撮影や原稿・レイアウトなどのほとんどを委員自ら編集しているとのこと。

広報紙の内容は、町村議会全国広報コンクールでも高い評価を得ており、これまでに数々の賞を受賞している。

◆所感

「美咲町議会が取り組んでいることは、こんなことだ」と知ってもらいたいという一心から、あらゆる手段を考え、現実的に可能なものは徹底的にチャレンジするという精神や、議員の年齢に関係なく幅広い世代で協力している体制、ラインワークスを使った議員間での原稿確認、議会事務局との関係性など、美咲町議会全体のフットワークの軽さや、広報広聴活動に取り組む姿勢など見習うべき点が多かった。

また、他の媒体と連携、連動した美咲町メディアミックス構想は、美咲町が持っている資源を活用して非常に上手くなされていた（若い世代が議会に興味を持ってくれるには、YouTube、Instagramは効果的であると考える。）。

そのために、議員が率先して業務を遂行しなければならないといった環境が醸成されており、それぞれの議員が得意分野を活かし役割分担がなされている。こういった点からも、町民と一緒に作る広報紙となり、読んでいただくきっかけになるのではないかな。

特に番組づくりについては、みさきテレビの存在が大きく、亀山市に真似できることではないが、やはりプロによって作られているからこそ見やすく良い番組ができる。また、議会として「話題になる取組」を続けていることが、美咲町議会の広報広聴活動に繋がっていると感じた。



美咲町議会にて

●京都府議会の取組について

【効果的な広報広聴の実施の検討について】

京都府議会では、広聴広報の取組については広報広聴会議が所管しており、会派から選出された6人の委員で構成されている。

京都府議会では、これまでも数多くの広報広聴の取組を実施してきたが、令和3年7月、議長から「効果的な広報広聴の実施」の検討を行うよう、議会運営委員会に対して諮問がなされた。そして、議会運営委員会から広報広聴会議に対し「効果的な広報広聴の実施」の検討要請がなされ、現状の広報番組等の検証やICTを利用した情報メディアの活用について検討を行うこととなった。

検討された内容は次のとおり

- ①代表質問等のテレビ中継検証
- ②テレビ広報番組「府議会 c a f e 京都」の検証
- ③ICTを利用した情報メディアの活用

これらの検討結果から、現在、テレビ広報番組の在り方の見直しや、SNSの積極的な活用など、様々な取組がなされている。

【ようこそ京都府議会】

これまで、KBS京都（京都のテレビ・ラジオ局）と協働し、テレビ広報番組「府議会 c a f e 京都」として年5回の30分番組を作ってきたが、議会活動をよりコンパクトかつタイムリーにお届けするため、テレビ広報番組「ようこそ京都府議会」が、令和4年度からスタートし、現在もその放送が続けられている。放送回数はそれまでの年5回から、年26回（5分番組24回、15分番組2回）と大幅に増えている。

番組については、主にKBS京都が制作し、事務局が確認する体制をとっている。制作された番組は、KBS京都に二次利用申請を行い、YouTubeで配信している。アナウンサーは原則ナレーションのみ担当しており、主に議員が出演している。

【若者参加型の広報広聴活動等】

広報広聴の取組の一つとして、若い世代に向けた「大学生等と議員の座談会」や「出前高校生議会」、「子ども議会」を行っている。

「大学生等と議員の座談会」では、議会に関心を持ってもらうため、テーマを設定し、意見交換という形を取っている。6名の広報広聴会議の委員が参加している。

また、「出前高校生議会」では、希望した高校に出向き、議会の仕組みについて説明し、その後、グループに分かれて意見交換という形で行われている。

さらに、「子ども議会」については、平成19年度より執行部と共催で2年に1度小学校5～6年を対象に模擬議会として開催している。

【京都府議会だより】

京都府の世帯数は、実に120万世帯であり、京都府議会だよりを府民だよりに挟み込んで郵送などで各家庭に配布しているため、通信運搬費等にかかなりの負担がかかっており、そのため紙面も限られておりA4サイズで4枚（A3見開き1枚分）に収めるよ

うにしている。その代わりに、QRコードなどを用いて、ホームページへ誘導するような工夫も凝らされている。題字は府内の高校生に筆耕を依頼している。

また、京都府議会だよりの発信方法は様々あり、多くの方に見ていただくための工夫として、文字拡大版や点字版などの作成も行っていることが、特徴的である。

◆所感

京都府議会の広報広聴の取組について、あらゆる業務において、まずは府議会に関心を持ってもらい、身近に感じてもらうことに注力していることが感じられた。

また、京都府の子ども議会に代表されるように、高校生・大学生だけでなく小学校から議会に触れる機会を作っているところは素晴らしいと感じた。また、議会だよりについては、題字を府内の高校生に筆耕依頼している点も、若い世代に興味を持ってもらう工夫の一つであると感じた。大変な思いをして作るものであるため、広報紙を全戸配布だけで満足することなく、参考にできる取り組みだと感じた。

テレビ広報番組については、視聴者が増えない悩みは同じなのだと共感しつつも、時間を短くする、手話通訳、字幕、などさまざまな工夫がなされており、できるだけたくさんの方の府民に届けたいという意欲が感じられる。

美咲町もそうであったが、番組がすっきりと見やすいのは地元テレビ局との連携が強いためであると感じた。亀山市議会もその繋がりを強めることが大事ではないかと考える。報道機関から見た目線や興味を持つトピックスなど、見せるプロである報道側の意見を聞き、効果的な「見せ方」や「伝え方」を学ぶ必要があると感じた。また、内容として広聴の分野が豊かであり、こどもや学生など若い方が政治に関わる姿が見えていて良いと感じた。



京都府議会にて

●まとめ

2つの議会を視察したが、美咲町・京都府とは議会の規模や体制の違いはあるものの、「どうしたら多くの市民に議会活動に興味を持ってもらえるか、理解してもらえるか」ということについて、様々な努力がなされている。

特に多彩なメディアを活用した情報発信や、市民との直接対話で広く意見を聴きとることに努力していることが印象深かった。両議会ともそうであったが、現在多くの自治体でYoutubeによる映像配信が行われており、そのメリットやデメリットについて研究したい。

また、市民が気軽に議会に触れる機会を増やすことが必要であり、他の媒体、SNSなどを活用して亀山市議会においても、日常の議員活動の動向を伝える方法を検討したり、次代を担う若者に政治に関心や興味をもってもらえるような、広聴広報の取組が必要である。